



ペットの年齢と 必要な栄養



ペットの成長段階に適したフードの選び方

最近では、「犬種別」「年齢別」など生活環境・年齢・犬種別の運動量等に合わせて栄養バランスや形状が工夫されたフードもいろいろあります。ペットフード公正取引協議会が定める成長段階では、「妊娠期/授乳期」「幼犬期・幼猫期/成長期またはグロース」「成犬期・成猫期/維持期またはメンテナンス」の3段階となっています。「老齢期用」等それ以上に細分化している場合は、統一された基準ではなく、各メーカーが独自の研究等を基準にしています。パッケージの表示等を見て詳細を判断すると良いでしょう。さらに、近年では、アレルギーや尿路疾患・毛玉や肥満等、健康維持に配慮したフードも多数開発（販売）されています。ただし、こうしたフードは治療のためのフードではありませんので、病気にかかった場合はすぐに獣医師の診断を受けましょう。

シニア用ペットフードについて

1歳の犬にシニア犬用のフードを与えてはいけないのか？という質問がよくあります。大型犬の1歳は、成長期。1歳の大型犬と小型犬とでは必要とする栄養要求量が異なります。シニア犬フードの多くは、成長期の子犬用フードや成犬期用フードよりもたんぱく質やカロリーが低いものが多いので、成犬や幼犬に常食として与えることは避けましょう。

Q 犬が10歳になりますが、10歳以上のフードに切り替えたほうが良いのでしょうか？

A 小・中型犬の10歳は人の56歳前後、大型犬では75歳前後に相当します。10歳以上のシニア犬になると、成犬とは違った栄養成分が必要となります。年齢にあったフードは、長寿犬の健康を維持し、免疫力維持に役立ちます。ただし、老化には個体差があるので、10歳になったら必ず10歳以上のフードを与えなければならないというわけではありません。10歳以上のフードでも、メーカーやフードの種類（ドライ・ウェット等）によっても栄養成分が異なるので、ペットの体調を見ながら切り替えていきましょう。



ペットフード/ペットマナー検定公式テキストより

